



弓削通信

フジニッカス

2016.8.15 №74 (通巻200) Since 1991.6

発行者 平山和昭 ☎&Fax 0897-77-3072

〒794-2509 愛媛県越智郡上島町弓削土生 318-2

メール yuguru3@ray.ocn.ne.jp

フェイスブック http://www.facebook.com/kazuaki.hirayama

ブログ http://blogs.yahoo.co.jp/yuguru_fish

■ 参院選振り返って

さる7月10日投開票された

分があったのだが・・・と言つても間に合いません。まさに棄権は、極めて危険な行為となるわけです。

■ 権力は常に知らしめない戦術

これらの現象は、おそらく国民に正確な多くの情報が届いていなかつた、国民が情報弱者だつたと思えて仕方がありません。情報が正しく十分に有権者に共有されていれば、自民党的な憲草案がいかにも危険に満ちてゐるか、だれでも容易に判断できることはあります。

憲法改正（筆者的には改悪）が一番のテーマであつたことが語るに落ちました。有権者はこれをどう聞いたでしょうか？

選挙は有権者の意志の反映であることは論をまちません。

あることは論をまちません。

日本海員組合の結成は大正10年（1921）とされますが、そこに至るまでの道程は決して平坦ではなかった。明治45年（1912）日本最初の船員ストライキが決行され、先頭に立つて指導したのが当時日本郵船宮崎丸で火夫長をしていた國太郎（39才）でした。社会的には明治33年（1900）には労働運動を取り締まる治安警察法が施行されており、労働者意識の低かったとされる当時の下級船員を団結させてストを打つなど、なまなかのことではなかったはずです。何が國太郎をして労働運動に向かわせたのか・・・。



実は本人の書き残した手記などの資料が皆無なので、そのあたり評伝や組織資料で推理するしかありません。

自らの体験に

汽船機関室の火夫の重労働

もとづく憤り？ 侠気？ 負けん気？ いやいや、それは後に組合を牽引してゆくことになる國太郎の資質の問題で、その資質を突き動かした社会的な背景があつたはずです。

「日露戦争終了後、軍役に従事した船員は2割の戦時手当を加えても低給料。殉職者に対する零細な弔慰金。そのうえ機関部の仕事は甲板部、司厨に比べて遙かに過酷であり、戦時景気に湧いていた陸上労働者を見た目には忍びがたい現実であった。当時日本郵船宮崎丸の火夫長をしていた國太郎は、同社大型船乗組の火夫長と連書の上会社に待遇改善の要求書を提出しようとしたが受理されず、個人的の要求がどんなに暴力によって裏付けされていても、強大な企業機構に対しては無力であることを知り、ここに団結の力をもって再挙を図り、初志を貫徹しようとして、郵船機関部員の組織化に着手したのである。」（西巻敏雄・日本海上労働運動史・日本海洋協会刊・昭和24年）

4・70%、比例代表54・69%だったそうです。当日有権者数は約1億620万人。日本の総人口が1億2700万人。人口の83%が有権者。その中で約4割を占めた棄権者と投票率で選挙の平均投票率は、選挙区5院選の平局投票率は、選挙区5

地政にあつても、国政のことなどあんまり関係ない、と考える有権者も少なくないとは思うのですが、新聞、テレビ、ラジオなど大手主要メディアが、選挙前にも、選挙中にも現政権の目指している改憲案の、どの部分がどう問題なのかは、殆ど報じていませんでした。これがゆゆしき一大事だったことも、おそらく圧倒的多数の有権者の認

か、変わった人々とを併せて民意とに行つた人々とを併せて民意としない人々は、選挙によつて生じるあらゆることに文句をいう資格を放棄したことになります。実はわたしには言ひます。

おしらせ
日本海員組合を創った生名島出身の濱田國太郎立像復活事業に取り組んでいます。多くの方々のご協力で事業資金が目標額に達しました。ありがとうございました。なお付帯事業としてのセレモニーも考え、引き続き募金活動は継続いたします。

また立像の設置は、納品予定が当初計画より2~3ヶ月遅れることになりましたので、ご了承ください。

濱田國太郎を顕彰する会

女性が議員になるということは、私のような小さな町の議員でも、ハーデルが非常に高い。選挙で言われる「地盤・看板・鞆」。普通に私は、子どものお金がかかる世代では、それだけでも大変。周囲の理解と本人の頑張りが不可欠です。でも不可能ではない。だからこそ私が頑張ることで、女性議員の増え思つています。



蛙の最終段階に至つたといわざるを得なくなります。現政権の目標は、自らの防衛のみか他国の戦争にも担当できる国にすることです。このままでは現憲法で禁じている「国際紛争を武力で解決する」ことを是とする国となるのは必定ですが、それでほんとにいいのですか？

■ まず末端自治体から変わろう
ところで10月は、わが町の町長、議員の改選です。次期選挙からは全町一区の選挙です。挨拶に来たからとか、頼まれたからとか、今までの選択スタイルをつぱり捨てます。積極的に日頃のご自分

の判断を優先し、島ごとではなく、町全体を見据えて活動する議員を選ぶためにも、これを機に選挙スタイルの脱皮・変化があるといなあと思ひます。

「人生死ぬまで勉強」とか言います。この頃特にそれを感じます。議員になつて4年目。初めて体験することが多く、ぶち当たつて悔しい思いもします。でも、今言えることは毎日が勉強で、毎日が新鮮だと思います。ただ、女であることの経験不足で足らないこともあります。ただ、女であることの経験不足や勉強不足は補つていくしかありません。



大西幸江

の未来は明るいか、暗いか？
■ 脱皮は辛くとも進化の一歩
町長を選ぶにしろ、議員を選ぶにしろ、選挙は有権者である読者の皆さんに委ねられています。議員選挙に関しては選ぶ判断を下せないだろうと見込まれた国民は、いよいよ茹で込まれたのだと、ついわざるを得なくなります。

現政権の目標は、自らの防衛のみか他国の戦争にも担当できる国にすることです。このままでは現憲法で禁じている「国際紛争を武力で解決する」ことを是とする国となるのは必定ですが、それでほんとにいいのですか？

これまでの事実から、改憲の最終ステップ国民投票でも、正しい判断を下せないだろうと見込まれた国民は、いよいよ茹で込まれたのだと、ついわざるを得なくなります。

現政権の目標は、自らの防衛のみか他国の戦争にも担当できる国にすることです。このままでは現憲法で禁じている「国際紛争を武力で解決する」ことを是とする国となるのは必定ですが、それでほんとにいいのですか？